

狭山市教育委員会
教育長 向野 康雄 様

狭山市立入間川中学校
校長 関根 保子 印

令和2年度 狭山市立入間川中学校 自己評価書

1 本年度の重点目標

(1) 確かな学力の定着 (2) 豊かな心の育成 (3) 保護者・地域との連携 (4) 安心・安全な環境の確立

2 本年度の経営方針

(1) 「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の3つの要素を基盤として、生きる力を育む教育の推進に努める。
(2) 一人一人の良さを生かし、川中チーム力の向上を図る。

3 自己評価結果

領域	番号	評価の観点	達成状況	改善の方策
1 学校教育 目標	1	共通理解が図られ、実現の努力がなされたか。	A	教職員は方針をよく理解している。また、保護者も9割5分以上に周知できている。今後も学校教育目標の周知及び実現に向けて努力したい。
	2	保護者への浸透が図られたか。	A	
	3	経営方針について共通理解が図られ実現の努力が図られたか。	A	
2 校務分掌	4	分掌の内容や責任が明確であったか。	A	適材適所、偏りのない校務分掌の推進を図る。小規模校なので教職員は複数の分掌を抱えているが、自分の分掌以外にも視野を広げ相互に連携して業務を遂行する協力が向上した。
	5	分掌が活発に機能し各分掌の連携が図られたか。	A	
	6	各分掌の組織が合理的に編成されているか。	A	
3 教育計画	7	学校教育目標や経営方針を具体化するために編制されたか。	A	6月再開ではあったが、計画的な授業時数の確保に努め、1,2年は1015時間を上回る時数確保がなされた。コロナ禍において地域の活動への参加や地域への学校の公開等は行えなかった。次年度につなげるための活動の引継ぎを確実にし、積極的に保護者・地域との連携を図ることを課題とする。
	8	年間授業日数が適切に配当されていたか。	A	
	9	授業日数の確保の努力が十分なされたか。	A	
	10	開かれた学校づくりに努力がなされたか。	B	
	11	教員が教育計画実施の担い手であるという自覚を持てたか。	A	
4 学年学級 経営	12	時間割により十分な成果を得ることができたか。	A	小規模校の特色を生かした、全教職員で全校生徒に関わる学校づくりに努めている。学年の枠を超え、学年の良い取組や工夫を全校で取入れ、学年・学級経営を行うことができた。教職員の参画意識を更に高め“川中チーム力の向上”を図る。
	13	学校・学年・学級経営の方針に一貫性があったか。	A	
	14	意図的、計画的に学年、学級経営が進められたか。	A	
	15	児童生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	B	
	16	教室環境の整備に努力がなされたか。	A	
	17	朝の会、給食、清掃、帰りの会などに工夫改善が加えられたか。	A	
5 学習指導	18	朝の読書への取り組みがしっかりなされたか。	A	朝読書から落ち着いた学校生活がスタートしている。全校で授業規律の徹底と集中して授業に取り組む生徒の育成に努めた。学力の向上、学習意欲の向上などの成果が得られた。テスト前の早朝からの学習や放課後の補習など学力向上のための取組を充実させた。
	19	児童生徒が進んで学ぶ授業の改善がなされたか。	A	
	20	基礎的・基本的内容を身につけさせるような工夫改善がなされたか。	A	
	21	児童生徒の長所を伸ばす評価の工夫がなされたか。	B	
	22	視聴覚・情報機器の積極的、効果的な活用がなされたか。	A	
6 道徳教育	25	全体計画を理解し、全教育活動をととして道徳教育の実践がなされたか。	A	道徳部で各学年の実施状況を把握し、時数の確実な確保に努めた。全校共通の自己評価カードの使用した。
	26	道徳の時間が生徒の実態把握に基づき、計画的に実践されたか。	A	
7 特別活動	27	全体計画を理解し、生徒の自己決定の場が多く設定されたか。	B	例年行うボランティア活動は殆ど実施できなかった。地域からの要請には快く引き受ける気風は入間川中学校の伝統となっている。次年度には活発に活動させたい。
	28	全体計画が、生徒の実態把握に基づき、計画的に実施されたか。	A	
	29	児童生徒会活動などの特性が理解され、児童生徒の自己実現がなされたか。	B	
	30	奉仕活動の活発化が図られたか。	A	
8 学校行事	31	学校行事が計画的に実施されたか。	A	コロナ禍でありながら、感染防止を徹底し、体育祭・なでしこ祭など、充実した学校行事が展開できた。生徒を大きく成長させる機会となる目的を果たした。
	32	学校行事の特性を生かし、生徒の自己実現が図られたか。	A	
	33	職員の仕事分担が適切であり、お互いに協力がなされたか。	A	
9 生徒指導	34	全体計画に基づき、計画的な指導がなされたか。	A	学年、学級の枠をこえ、「全職員で全校生徒を育てる」という方針のもと、教職員の意識を高めるよう努めた。各部会が積極的に動き、機能し、課題の早期発見・早期対応を実現している。「学校生活が楽しく、入間川中学校が好きだ」と言う生徒91.6%。95%超を目指し、引き続き努力する。外部機関と積極的に連携を図ることができた。「いじめ」の重大事案の発生は「0」であった。不登校生徒の減少は引続き大きな課題ではあるが、職員室、相談室、外部機関との密な連携が図れているの解消するよう努める。
	35	職員に共通理解があったか。	A	
	36	カウンセリングマインドを心がけて指導がなされたか。	A	
	37	教育相談活動が計画的に実施されたか。	A	
	38	基本的な生活習慣が定着するよう指導がなされたか。	A	
	39	児童生徒が意欲的に清掃活動を行うよう指導がなされたか。	B	
	40	いじめや不登校の指導が積極的になされたか。	A	
	41	不登校生徒が出ないよう努力がなされたか。	A	
42	家庭、地域、諸機関との連携が密に行われたか。	A		

10 進路 指導	43	全体計画に基づき、計画的な指導が行われたか。	A	1年職場体験実施しなかった。2年生高校説明会、高校模擬授業体験、3年は高校説明会と計画的に行うことができた。
	44	児童生徒が自己の生き方について考えることのできる授業や指導がなされたか。	A	
	45	家庭との連携が行われたか。	A	
11 保健・ 安全 指導	46	保健観察が丁寧に行われたか。	A	コロナ対策として、健康チェック徹底を遂行した。保護者への啓発も積極的に行い、保護者の協力を強く要請した。1年を通して大きなけがや病気もなく、生徒の健康管理面においてもよい保健室経営がなされた。薬物乱用防止等の保健学習の講演、避難訓練やスケアードストレイト等の安全教育も計画に沿って実施した。給食指導は手洗い、手指の消毒を徹底させ、感染防止に努めた。
	47	児童生徒の危険な行動【予測されるものを含めて】に対して適切な指導がなされたか。	A	
	48	健康や体力向上に進んで取り組む指導がなされたか。	A	
	49	治療が必要な生徒に適切に治療勧告がなされたか。	A	
	50	事故に対する対応が適切になされたか。	A	
	51	性に関する指導が共通理解のもとに行われたか。	A	
52	給食指導が適切になされたか。	A		
12 職員 会議	53	開始時刻が守られたか。	A	企画委員会であらかじめ原案を精査するなど効率化を図り、勤務時間内に終了することができている。直前の確認は日報を活用しており、活動に支障をきたすことはなかった。全職員が会議の進行には協力的で建設的な意見が出されている。会議の内容も共通理解が図られ、職員間の連携も円滑である。
	54	職員が問題意識を持って臨めたか。	A	
	55	議案の内容や提案の仕方が適切であったか。	A	
	56	建設的な意見が述べられ、よりよい会議の進行に協力的であったか。	A	
	57	会議の内容がよく理解され、決定されたことが責任持って実行できたか。	A	
	58	自己評価シートの内容が適切に進められたか。	B	
13 教職 員の 服務	59	教育公務員としての自覚を持ち公務員倫理のもと服務の厳正に努めたか。	A	教育公務員としての自覚をもち、全教職員はまじめな勤務態度で職務を遂行した。教師と生徒、保護者または職員同士の良好な信頼関係が築けている。一人一人の学校運営において一人一人の参画意識を高めた。生徒、保護者に対して丁寧にこまやかな対応ができています。協働の精神を醸成し、明るく元気な職場づくりに努めた。
	60	ゆとりを持った出勤がなされたか。	B	
	61	服装、言葉遣い、挨拶等は適切であったか。	A	
	62	出張や研修の報告が速やかに行われたか。	B	
	63	組織の一員としての自覚に基づき一人一人の責任が果たせたか。	A	
	64	健康維持増進のための努力がなされたか。	A	
14 校内 研修	65	研究主題が児童生徒・地域の実態や課題を踏まえた適切なものであったか。	A	年度当初の計画に基づき進めることができた。今年度は小中一貫教育合同研修は、実施できなかった不祥事防止研修は複数回に分けて行った。小グループでの話し合いなどを取り入れることができた。次年度に備え、学習の評価、評定についての研修会を実施した。
	66	研究組織や進め方は研究内容に応じて合理的・機能的であったか。	A	
	67	教職員が意欲的に取り組んでいたか。	A	
	68	研究の結果、児童生徒の変容が見られ、子供のためになったか。	B	
	69	研究内容が日々の指導の中に生かされ、教員にもしっかり身についたか。	B	
	70	研究の成果を次年度に生かす見通しができたか。	A	
15 施設 設備	71	施設設備が丁寧に正しく利用できたか。	A	人為的破損はほとんどない。老朽化に伴う修繕の必要性が高まっているため、計画的に予算を執行した。定期的な安全点検の実施と事務室との連携を図り、事後処理と対応を迅速に行った。校内整備には常に巡回をし、不要物の処理を行った。生徒の作品が整然と掲示され、視覚的な環境を整えた。
	72	備品の所在数量使用方法などが明確に把握され、有効に利用されたか。	A	
	73	使用後は施錠等が確実になされ、しっかり後始末ができたか。	A	
	74	掲示施設が有効に活用され、掲示教育が積極的になされたか。	A	
	75	環境整備に生徒も積極的に参加し、積極的な活動がなされたか。	B	
16 学校 事務	76	出勤簿は毎朝、押印されたか。	B	文書、諸表簿の取り扱いが適正に行われた。出勤簿の押印は個人的に声掛けを行った。会計事務も適正に迅速に処理することができた。個人情報や現金の管理を徹底して行き、事故は「0」であった。
	77	旅行命令簿はその都度、適切に記入されたか。	A	
	78	出席簿は毎日記入され、月ごとの集計は滞りなく行われたか。	A	
	79	文書は事前に校長に提出し、点検を受け、期限までに発送されたか。	A	
	80	現金の取り扱いは細心の注意が払われ、会計事務は適切に処理されたか。	A	
17 P T A 家庭 地域	81	家庭訪問・保護者会等は適切に計画され遂行されたか。	A	休校期間中は3回の表札訪問を行い、生徒の様子を確認し、保護者との連携を図った。保護者、地域と学校が連携して生徒を育成する土壌ができていますので、今後も地域の活動については、生徒、教職員ともに積極的に参加し、交流を深めていく。
	82	学年・学級便り等の発行は適切になされ、保護者への情報提供は適切であったか。	B	
	83	地域や家庭を積極的に理解するよう努力されたか。	A	
	84	積極的にP T Aや地域の活動へ積極的に参加したか。	B	
18 部活 動	85	部活動の指導は計画的に適切に行われたか。	A	生徒の良さを伸ばす指導に努めているが、小規模校ゆえ顧問の専門性と担当部活にずれが生じる面が課題である。複数顧問制にし、職員の負担軽減につなげた。
19 総合	86	内容は生徒の興味をそそるものであったか。	A	自然体験、福祉体験、進路・キャリア教育等、年間計画に沿って実施することができた。事前学習・事後の発表のためにPCの活用ができた。
	87	計画に沿って実施できたか。	A	
	88	図書室・コンピュータ室等の利用は計画的に適切に行われたか。	B	